

授業科目  看護学概論（新）	配当時期 単位数 時間数 1 年前期 1 30	講義担当者  前田淳子 (実務経験有)																																													
授業目標 看護実践の基礎となる看護の概念、看護の目的、看護の役割・機能、看護理論を学び、看護の本質を理解する																																															
ディプロマポリシーのキーワード 看護専門職としての責任の自覚 探求心 主体的な学び																																															
授業の流れ <table border="1" data-bbox="175 672 1436 1433"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、専門職としての看護師</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護とは、看護の定義、看護の構造</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護実践のための基準</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>看護の歴史的変遷 看護基礎教育の変遷</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>看護実践における重要な概念 (グループワーク)</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発表 まとめ</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>健康・病気・ウェルネスの定義</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>健康をめぐる医療活動</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>看護の対象理解</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>看護における倫理と法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>看護実践のための理論的根拠</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ライフサイクルと健康</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>看護実践を支えるもの</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>これからの看護の課題と展望</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>(実践的な教育内容)</p> <p>総合病院における臨床経験に基づき、看護の本質と看護の対象である人間について学び、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能が理解できるように授業を行う。</p>			回	学習内容	方法	1	ガイダンス、専門職としての看護師	講義	2	看護とは、看護の定義、看護の構造	講義	3	看護実践のための基準	講義	4	看護の歴史的変遷 看護基礎教育の変遷	講義	5・6	看護実践における重要な概念 (グループワーク)	演習	7	発表 まとめ	演習	8	健康・病気・ウェルネスの定義	講義	9	健康をめぐる医療活動	講義	10	看護の対象理解	講義	11	看護における倫理と法	講義	12	看護実践のための理論的根拠	講義	13	ライフサイクルと健康	講義	14	看護実践を支えるもの	講義	15	これからの看護の課題と展望	講義
回	学習内容	方法																																													
1	ガイダンス、専門職としての看護師	講義																																													
2	看護とは、看護の定義、看護の構造	講義																																													
3	看護実践のための基準	講義																																													
4	看護の歴史的変遷 看護基礎教育の変遷	講義																																													
5・6	看護実践における重要な概念 (グループワーク)	演習																																													
7	発表 まとめ	演習																																													
8	健康・病気・ウェルネスの定義	講義																																													
9	健康をめぐる医療活動	講義																																													
10	看護の対象理解	講義																																													
11	看護における倫理と法	講義																																													
12	看護実践のための理論的根拠	講義																																													
13	ライフサイクルと健康	講義																																													
14	看護実践を支えるもの	講義																																													
15	これからの看護の課題と展望	講義																																													
受講上の注意 看護学概論は「看護とは何か」という看護の概念を学問的に捉える看護学入門の科目です。看護実践の基礎となる、看護の本質、看護の役割・機能、看護の方法論等について学び看護に対し	評価方法 試験：80% 課題：20%																																														
教科書・参考書等 教科書 志自岐康子他著.看護学概論. メディカ出版																																															

授業科目  フィジカルアセスメント (新)	配当時期 1年後期  単位数 1  時間数 30	講義担当者  岡本 美奈 (実務経験有)																																							
授業目標 対象の身体状態に関する情報を系統的に収集し、看護実践に不可欠なフィジカルアセスメントの技術を習得する																																									
ディプロマポリシーのキーワード 科学的根拠 看護実践力 探究心・主体的な学び																																									
授業の流れ <table border="1" data-bbox="159 627 1149 1299"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>フィジカルアセスメントとは</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>バイタルサイン：体温</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>バイタルサイン：脈拍・呼吸</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>バイタルサイン：血圧</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5・6</td> <td>バイタルサイン技術演習</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>系統別アセスメント：呼吸器系</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>系統別アセスメント：循環器系</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>系統別アセスメント：消化器系</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>系統別アセスメント：筋・骨格系</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>系統別アセスメント：神経系</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12・13</td> <td>フィジカルアセスメント技術演習</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>14・15</td> <td>フィジカルアセスメント技術演習 (実践的な教育内容)</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合病院における病棟と手術室勤務経験に基づき、自らの技術を活かして情報を多角的に集め、患者の健康状態をアセスメントする技術が修得できるように授業を行う。</p>			回	学習内容	方法	1	フィジカルアセスメントとは	講義	2	バイタルサイン：体温	講義	3	バイタルサイン：脈拍・呼吸	講義	4	バイタルサイン：血圧	講義	5・6	バイタルサイン技術演習	演習	7	系統別アセスメント：呼吸器系	講義	8	系統別アセスメント：循環器系	講義	9	系統別アセスメント：消化器系	講義	10	系統別アセスメント：筋・骨格系	講義	11	系統別アセスメント：神経系	講義	12・13	フィジカルアセスメント技術演習	演習	14・15	フィジカルアセスメント技術演習 (実践的な教育内容)	演習
回	学習内容	方法																																							
1	フィジカルアセスメントとは	講義																																							
2	バイタルサイン：体温	講義																																							
3	バイタルサイン：脈拍・呼吸	講義																																							
4	バイタルサイン：血圧	講義																																							
5・6	バイタルサイン技術演習	演習																																							
7	系統別アセスメント：呼吸器系	講義																																							
8	系統別アセスメント：循環器系	講義																																							
9	系統別アセスメント：消化器系	講義																																							
10	系統別アセスメント：筋・骨格系	講義																																							
11	系統別アセスメント：神経系	講義																																							
12・13	フィジカルアセスメント技術演習	演習																																							
14・15	フィジカルアセスメント技術演習 (実践的な教育内容)	演習																																							
受講上の注意 ヘルスアセスメントとは、情報を多角的に集め、患者の現在の健康状態だけでなく、心理・社会的状況視野に入れた査定を行うことによって、患者の個としての存在を認めてその人らしさを求めるものであり、また看護上の問題抽出や看護計画立案・実施につなげるものである。看護をする上で、必要不可欠な技術であるので、しっかりと身につけてください。	評価方法  試験：60% 技術チェック：30% 課題：10%																																								
教科書・参考書等 教科書 茂野香おる他著.系統看護学講座.基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ.医学書院 参考書 守田美奈子他著.看護のためのフィジカルアセスメント.インターメディカ																																									

授業科目  看護共通基本技術論（新）	配当時期 単位数 時間数 1 年前期 1 30	講義担当者  藤村澄子 （実務経験有）																																														
授業目標 看護技術の概念と特性について学び、看護技術習得の重要性を理解し、日常生活援助に共通する感染防止の技術、安全確保の技術を習得する																																																
ディプロマポリシーのキーワード 看護実践力 看護専門職としての責任の自覚 探究心 主体的な学び																																																
授業の流れ <table border="1" data-bbox="191 672 1276 1456"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>看護技術とは何か</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>感染とその予防の基礎知識、誤薬防止</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>標準予防策（スタンダードプリコーション）</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>感染経路別予防策</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>洗浄・消毒・滅菌、無菌操作</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>感染性廃棄物の取り扱い</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>針刺し予防策、医療施設における感染防止</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>スタンダードプリコーション</td><td rowspan="2">演習</td></tr> <tr><td>9</td><td>（手洗い・マスク・手袋・手指消毒・ガウン）</td></tr> <tr><td>10</td><td>安全確保の基礎知識、誤薬防止</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>チューブ類の事故防止</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>患者誤認防止、転倒・転落防止</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>薬剤・放射線暴露の防止</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>KYT学習</td><td rowspan="2">GW</td></tr> <tr><td>15</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>（実践的な教育内容）</p> 大学病院における多くの臨床経験に基づき、看護技術習得の重要性を理解し、日常生活援助に共通する感染防止の技術、安全確保の技術が習得できるように授業を行う。			回	学習内容	方法	1	看護技術とは何か	講義	2	感染とその予防の基礎知識、誤薬防止	講義	3	標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義	4	感染経路別予防策	講義	5	洗浄・消毒・滅菌、無菌操作	講義	6	感染性廃棄物の取り扱い	講義	7	針刺し予防策、医療施設における感染防止	講義	8	スタンダードプリコーション	演習	9	（手洗い・マスク・手袋・手指消毒・ガウン）	10	安全確保の基礎知識、誤薬防止	講義	11	チューブ類の事故防止	講義	12	患者誤認防止、転倒・転落防止	講義	13	薬剤・放射線暴露の防止	講義	14	KYT学習	GW	15	
回	学習内容	方法																																														
1	看護技術とは何か	講義																																														
2	感染とその予防の基礎知識、誤薬防止	講義																																														
3	標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義																																														
4	感染経路別予防策	講義																																														
5	洗浄・消毒・滅菌、無菌操作	講義																																														
6	感染性廃棄物の取り扱い	講義																																														
7	針刺し予防策、医療施設における感染防止	講義																																														
8	スタンダードプリコーション	演習																																														
9	（手洗い・マスク・手袋・手指消毒・ガウン）																																															
10	安全確保の基礎知識、誤薬防止	講義																																														
11	チューブ類の事故防止	講義																																														
12	患者誤認防止、転倒・転落防止	講義																																														
13	薬剤・放射線暴露の防止	講義																																														
14	KYT学習	GW																																														
15																																																
受講上の注意 看護の対象者、そして看護を提供する自分自身を守るための感染予防と医療安全についてはあらゆる看護技術を支える要素である。自ら学び考えるようになって下さい。	評価方法 試験：80% 課題：20%																																															
教科書・参考書等 教科書 有田清子他著.系統看護学講座.基礎看護技術Ⅰ.医学書院 参考書 竹尾恵子監修.看護技術プラクティス.学研																																																

授業科目  生活援助技術論Ⅰ（新）	配当時期 1 年前期  単位数 1  時間数 30	講義担当者  中西 知佐子 （実務経験有）																																							
授業目標 日常生活援助技術である環境整備、活動・休息援助技術について基礎知識を学び、安全・安楽に実施できる技術を習得する。																																									
ディプロマポリシーのキーワード 看護実践力 看護専門職としての責任と自覚 探究心 主体的な学び																																									
授業の流れ <table border="1" data-bbox="159 672 1420 1344"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>療養生活の環境</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>病室の環境のアセスメントと調整</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>ベッド周囲の環境整備</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4・5</td><td>ベッド周囲の環境整備</td><td>演習</td></tr> <tr><td>6</td><td>ボディメカニクス</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>基本的活動の基礎知識</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>基本的活動の基礎知識（廃用症候群・良肢位について）</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>体位・移動（体位変換・歩行・移動・移送）の援助</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10・11</td><td>体位変換の援助の実際</td><td>演習</td></tr> <tr><td>12・13</td><td>臥床患者のリネン交換</td><td>演習</td></tr> <tr><td>14</td><td>歩行・移乗・移送の援助の実際</td><td>演習</td></tr> <tr><td>15</td><td>睡眠・休息の援助</td><td>講義</td></tr> </tbody> </table> <p>（実践的な教育内容）</p> <p>総合病院での病棟勤務と特別養護老人ホームでの勤務経験に基づき、日常生活援助技術についての基礎知識を学び、安全・安楽に実施できる技術が習得できるように授業を行う。</p>			回	学習内容	方法	1	療養生活の環境	講義	2	病室の環境のアセスメントと調整	講義	3	ベッド周囲の環境整備	講義	4・5	ベッド周囲の環境整備	演習	6	ボディメカニクス	講義	7	基本的活動の基礎知識	講義	8	基本的活動の基礎知識（廃用症候群・良肢位について）	講義	9	体位・移動（体位変換・歩行・移動・移送）の援助	講義	10・11	体位変換の援助の実際	演習	12・13	臥床患者のリネン交換	演習	14	歩行・移乗・移送の援助の実際	演習	15	睡眠・休息の援助	講義
回	学習内容	方法																																							
1	療養生活の環境	講義																																							
2	病室の環境のアセスメントと調整	講義																																							
3	ベッド周囲の環境整備	講義																																							
4・5	ベッド周囲の環境整備	演習																																							
6	ボディメカニクス	講義																																							
7	基本的活動の基礎知識	講義																																							
8	基本的活動の基礎知識（廃用症候群・良肢位について）	講義																																							
9	体位・移動（体位変換・歩行・移動・移送）の援助	講義																																							
10・11	体位変換の援助の実際	演習																																							
12・13	臥床患者のリネン交換	演習																																							
14	歩行・移乗・移送の援助の実際	演習																																							
15	睡眠・休息の援助	講義																																							
受講上の注意 環境調整技術は、常に全ての看護学実習で必要となる技術です。対象にとってのあんぜん・安楽な環境調整技術習得を目指し、主体的に学習をすすめてください。	評価方法 試験：60% 技術チェック：30% 課題：10%																																								
教科書・参考書等 教科書 有田清子他著、系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ、医学書院 香春知永他著、系統看護学講座臨床看護総論、医学書院 参考書 竹尾恵子監修、看護技術プラクティス、学研																																									

授業科目  在宅看護概論（新）	配当時期 2年前期 単位数 1 時間数 15	講義担当者  福井由紀子 （実務経験有）																											
授業目標 在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景をふまえ、疾病と障害を持ちながら在宅で療養する対象と家族、在宅看護の概要を学び、在宅看護を展開するうえで必要な知識を習得する																													
ディプロマポリシーのキーワード 地域社会 健康課題 健康と生活の質 多職種連携・協働																													
授業の流れ <table border="1" data-bbox="199 728 1204 1176"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>在宅看護が必要とされる社会的背景・在宅看護の目的と特徴</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>在宅看護の対象者</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>在宅看護の提供方法・療養の場の移行</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>介護保険制度</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>訪問看護制度</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ケアマネジメントと社会資源</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地域における多職種連携</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>在宅看護における権利保障</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="159 1523 422 1563">（実践的な教育内容）</p> <p data-bbox="140 1579 1300 1668">総合病院での病棟勤務経験に基づき、地域看護活動における在宅看護の位置づけと在宅看護の目的やその制度について理解できるように授業を行う。</p>		回	学習内容	方法	1	在宅看護が必要とされる社会的背景・在宅看護の目的と特徴	講義	2	在宅看護の対象者	講義	3	在宅看護の提供方法・療養の場の移行	講義	4	介護保険制度	講義	5	訪問看護制度	講義	6	ケアマネジメントと社会資源	GW	7	地域における多職種連携	GW	8	在宅看護における権利保障	講義	方法 方法 講義 講義 講義 講義 講義 GW GW 講義
回	学習内容	方法																											
1	在宅看護が必要とされる社会的背景・在宅看護の目的と特徴	講義																											
2	在宅看護の対象者	講義																											
3	在宅看護の提供方法・療養の場の移行	講義																											
4	介護保険制度	講義																											
5	訪問看護制度	講義																											
6	ケアマネジメントと社会資源	GW																											
7	地域における多職種連携	GW																											
8	在宅看護における権利保障	講義																											
受講上の注意 家庭で療養しながら生活している人々について理解を深め、在宅看護における看護師の役割・機能、在宅看護への支援とはどのようなことか、考えていきましょう。	評価方法 試験：80％ 課題：20％																												
教科書・参考書等 教科書 秋山正子他著、系統看護学講座 在宅看護論、医学書院																													

授業科目 在宅看護支援論演習 (新)	配当時期 2年後期 単位数 1 時間数 15	講義担当者 福井由紀子 (実務経験有)																								
授業目標 在宅で療法する対象とその家族の生活の質を維持・向上するための思考過程（看護過程）と在宅看護に特有な在宅看護技術を習得する																										
ディプロマポリシーのキーワード 科学的根拠 健康と生活の質																										
授業の流れ <table border="1" data-bbox="159 672 1276 1075"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>在宅看護過程・記録用紙についての説明</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事例の説明</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3・4</td> <td>事例のアセスメント</td> <td>個人ワーク</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>教員より個別指導</td> <td>個別指導</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>事例の解説</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>訪問時のマナー</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>在宅看護論実習に向けての説明</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="159 1456 1276 1612">           (実践的な教育内容)            総合病院での病棟勤務経験に基づき、看護過程と在宅看護に特有な在宅看護技術を習得するための授業を行う。         </p>			回	学習内容	方法	1	在宅看護過程・記録用紙についての説明	講義	2	事例の説明	講義	3・4	事例のアセスメント	個人ワーク	5	教員より個別指導	個別指導	6	事例の解説	講義	7	訪問時のマナー	講義	8	在宅看護論実習に向けての説明	講義
回	学習内容	方法																								
1	在宅看護過程・記録用紙についての説明	講義																								
2	事例の説明	講義																								
3・4	事例のアセスメント	個人ワーク																								
5	教員より個別指導	個別指導																								
6	事例の解説	講義																								
7	訪問時のマナー	講義																								
8	在宅看護論実習に向けての説明	講義																								
受講上の注意 事例を用いて在宅看護過程の思考過程を身につけていきます。 課題の提出での評価になりますので、必ず期限を守って提出するようにしてください。	評価方法 課題：100%																									
教科書・参考書等 参考書 秋山正子他著. 系統看護学講座 在宅看護論, 医学書院 教科書は使用せずレジメを配布します																										

授業科目  成人看護学概論（新）	配当時期 単位数 時間数  2 年前期 1 1 5	講義担当者  瀬良垣 香 （実務経験有）																								
授業目標  成人各期の特徴や固有の健康問題について学び、成人看護学の基礎となる考え方やアプローチを諸理論をふまえ、理解する																										
ディプロマポリシーのキーワード 対象の全人的理解      価値観や主体性の尊重 探求心                      主体的な学び																										
授業の流れ  <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 70%;">学習内容</th> <th style="width: 25%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人期にある対象の理解 ①成長発達の特徴      ②身体機能の特徴と看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>成人の生活を理解する視点と方法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>健康観の多様性と看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>学習の特徴と看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生活習慣に関連する健康障害</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6・7</td> <td>成人看護に必要な理論についてグループワーク            ①ストレスコーピング・適応理論、危機理論            ②エンパワーメント・自己効力感            ③コンプライアンス、アドヒアランス、アンドゴラジー</td> <td>GW</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発表、まとめ</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table> （実践的な教育内容） 特定機能病院における長年の臨床経験による幅広い分野での看護経験と指導経験に基づき、成人各期の特徴や固有の健康問題について学び、成人看護学の基礎となる考え方やアプローチについて理解できるように授業を行う。			回	学習内容	方法	1	成人期にある対象の理解 ①成長発達の特徴      ②身体機能の特徴と看護	講義	2	成人の生活を理解する視点と方法	講義	3	健康観の多様性と看護	講義	4	学習の特徴と看護	講義	5	生活習慣に関連する健康障害	講義	6・7	成人看護に必要な理論についてグループワーク ①ストレスコーピング・適応理論、危機理論 ②エンパワーメント・自己効力感 ③コンプライアンス、アドヒアランス、アンドゴラジー	GW	8	発表、まとめ	演習
回	学習内容	方法																								
1	成人期にある対象の理解 ①成長発達の特徴      ②身体機能の特徴と看護	講義																								
2	成人の生活を理解する視点と方法	講義																								
3	健康観の多様性と看護	講義																								
4	学習の特徴と看護	講義																								
5	生活習慣に関連する健康障害	講義																								
6・7	成人看護に必要な理論についてグループワーク ①ストレスコーピング・適応理論、危機理論 ②エンパワーメント・自己効力感 ③コンプライアンス、アドヒアランス、アンドゴラジー	GW																								
8	発表、まとめ	演習																								
受講上の注意  成人期はライフサイクルの中で最も長い期間で、身体的・精神的背景だけでなく社会的役割の変化が大きい時期でもある。そのことが成人期にある人々の健康にどのように影響しているか理解できるようにする。GWでは、各自が積極的に成人看護に必要な理論について意見交換を行いまとめること。理論についてはその都度参考書を提示する。	評価方法  試験：80%  課題：20%																									
教科書・参考書等  教科書 安酸史子、ナーシンググラフィカ 成人看護学概論、メディカ出版																										

授業科目  成人看護 援助論演習（新）	配当時期 2年後期 単位数 1 時間数 20	講義担当者  瀬良垣 香 (実務経験有)																											
授業目標 健康状態に応じた健康問題を解決するための思考過程（看護過程）と周手術期に特有な看護技術や療養支援に必要な看護技術を習得する																													
ディプロマポリシーのキーワード 対象の全人的理解 探求心 科学的根拠 主体的な学び 看護実践力																													
授業計画 <table data-bbox="159 716 1404 1254"><thead><tr><th data-bbox="159 716 255 761">&lt;回&gt;</th><th data-bbox="622 716 782 761">&lt;学習内容&gt;</th><th data-bbox="1292 716 1404 761">&lt;方法&gt;</th></tr></thead><tbody><tr><td data-bbox="191 784 223 828">1</td><td data-bbox="271 784 686 828">ガイダンス、事例紹介、基礎学習</td><td data-bbox="1276 784 1420 828">講義・演習</td></tr><tr><td data-bbox="175 851 239 896">2・3</td><td data-bbox="271 851 526 896">事例のアセスメント</td><td data-bbox="1308 851 1388 896">演習</td></tr><tr><td data-bbox="191 918 223 963">4</td><td data-bbox="271 918 654 963">基本情報とアセスメントの指導</td><td data-bbox="1308 918 1388 963">演習</td></tr><tr><td data-bbox="191 985 223 1030">5</td><td data-bbox="271 985 494 1030">事例の関連図作成</td><td data-bbox="1308 985 1388 1030">演習</td></tr><tr><td data-bbox="191 1052 223 1097">6</td><td data-bbox="271 1052 446 1097">関連図の指導</td><td data-bbox="1308 1052 1388 1097">演習</td></tr><tr><td data-bbox="191 1120 223 1164">7</td><td data-bbox="271 1120 766 1164">基本情報・アセスメント・関連図の解説</td><td data-bbox="1308 1120 1388 1164">講義</td></tr><tr><td data-bbox="175 1187 239 1232">8・9</td><td data-bbox="271 1187 526 1232">看護計画立案・実施</td><td data-bbox="1308 1187 1388 1232">演習</td></tr><tr><td data-bbox="191 1254 223 1299">10</td><td data-bbox="271 1254 367 1299">まとめ</td><td data-bbox="1308 1254 1388 1299">講義</td></tr></tbody></table> <p data-bbox="159 1321 399 1366">(実践的な教育内容)</p> <p data-bbox="143 1366 1420 1444">特定機能病院における長い臨床経験による幅広い分野での看護経験と指導経験に基づき、看護過程と周手術期に特有な看護技術や療養支援に必要な看護技術が習得できるように授業を行う。</p>			<回>	<学習内容>	<方法>	1	ガイダンス、事例紹介、基礎学習	講義・演習	2・3	事例のアセスメント	演習	4	基本情報とアセスメントの指導	演習	5	事例の関連図作成	演習	6	関連図の指導	演習	7	基本情報・アセスメント・関連図の解説	講義	8・9	看護計画立案・実施	演習	10	まとめ	講義
<回>	<学習内容>	<方法>																											
1	ガイダンス、事例紹介、基礎学習	講義・演習																											
2・3	事例のアセスメント	演習																											
4	基本情報とアセスメントの指導	演習																											
5	事例の関連図作成	演習																											
6	関連図の指導	演習																											
7	基本情報・アセスメント・関連図の解説	講義																											
8・9	看護計画立案・実施	演習																											
10	まとめ	講義																											
受講上の注意  成人看護援助論演習では、既習科目の基礎的な知識や技術を統合し、適切な看護を提供できるまでの思考を学びます。主体的に授業に参加し、自ら学ぶ努力をしてください。	評価方法 課題：100%																												
教科書・参考書等 参考書 リンダJ.カルペニート.看護診断ハンドブック/医学書院																													



授業科目  小児看護学概論（新）	配当時期 2 年前期 単位数 1 時間数 15	講義担当者  杉田千明 （実務経験有）																											
授業目標 小児看護実践の基礎となる概念と理論をふまえ、子どもの成長・発達を学び、小児看護の役割と機能について理論する																													
ディプロマポリシーのキーワード 対象の全人的理解 科学的根拠																													
授業計画 <table border="1" data-bbox="159 672 1436 1120"> <thead> <tr> <th data-bbox="159 672 287 716">&lt;回&gt;</th> <th data-bbox="287 672 1324 716">&lt;学習内容&gt;</th> <th data-bbox="1324 672 1436 716">&lt;方法&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="159 716 287 761">1</td> <td data-bbox="287 716 1324 761">ガイダンス、小児看護とは、小児看護の歴史と意義、子どもの権利と看護</td> <td data-bbox="1324 716 1436 761">講義</td> </tr> <tr> <td data-bbox="159 761 287 806">2</td> <td data-bbox="287 761 1324 806">小児に必要な法律・施策</td> <td data-bbox="1324 761 1436 806">講義</td> </tr> <tr> <td data-bbox="159 806 287 851">3</td> <td data-bbox="287 806 1324 851">小児看護で用いられる理論</td> <td data-bbox="1324 806 1436 851">講義</td> </tr> <tr> <td data-bbox="159 851 287 896">4</td> <td data-bbox="287 851 1324 896">成長・発達の原則、乳幼児期の子どもの成長・発達と看護</td> <td data-bbox="1324 851 1436 896">講義</td> </tr> <tr> <td data-bbox="159 896 287 940">5</td> <td data-bbox="287 896 1324 940">幼児期の子どもの成長・発達と看護</td> <td data-bbox="1324 896 1436 940">講義</td> </tr> <tr> <td data-bbox="159 940 287 985">6</td> <td data-bbox="287 940 1324 985">学童期の子どもの成長・発達と看護</td> <td data-bbox="1324 940 1436 985">講義</td> </tr> <tr> <td data-bbox="159 985 287 1030">7</td> <td data-bbox="287 985 1324 1030">思春期の人々の成長・発達と看護</td> <td data-bbox="1324 985 1436 1030">講義</td> </tr> <tr> <td data-bbox="159 1030 287 1075">8</td> <td data-bbox="287 1030 1324 1075">まとめ</td> <td data-bbox="1324 1030 1436 1075">GW</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="159 1321 399 1366">（実践的な教育内容）</p> <p data-bbox="145 1377 1461 1467">大学病院と母子保健医療センターでの小児看護の臨床経験に基づき、小児と家族について学び、小児の成長過程と健康増進のための小児看護が理解できるように授業を行う。</p>			<回>	<学習内容>	<方法>	1	ガイダンス、小児看護とは、小児看護の歴史と意義、子どもの権利と看護	講義	2	小児に必要な法律・施策	講義	3	小児看護で用いられる理論	講義	4	成長・発達の原則、乳幼児期の子どもの成長・発達と看護	講義	5	幼児期の子どもの成長・発達と看護	講義	6	学童期の子どもの成長・発達と看護	講義	7	思春期の人々の成長・発達と看護	講義	8	まとめ	GW
<回>	<学習内容>	<方法>																											
1	ガイダンス、小児看護とは、小児看護の歴史と意義、子どもの権利と看護	講義																											
2	小児に必要な法律・施策	講義																											
3	小児看護で用いられる理論	講義																											
4	成長・発達の原則、乳幼児期の子どもの成長・発達と看護	講義																											
5	幼児期の子どもの成長・発達と看護	講義																											
6	学童期の子どもの成長・発達と看護	講義																											
7	思春期の人々の成長・発達と看護	講義																											
8	まとめ	GW																											
受講上の注意 予習：テキストの該当項目を熟読するとともに、理解できていない箇所を明確にし、また、関連動画がある場合は視聴しておくこと 復習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深めること	評価方法 課題；30% 試験；70%																												
教科書・参考書等 教科書 中野綾美他著、小児看護学①小児の発達と看護、メディカ出版 参考書 奈良間美保他著、系統看護学講座 小児看護学総論、医学書院																													

授業科目  小児看護援助論演習（新）	配当時期 2年後期  単位数 1  時間数 30	講義担当者  杉田千明 (実務経験有)																														
授業目標 小児の成長・発達ならびに健康状態に応じた日常生活上の援助および検査や処置・治療における適切な援助方法を理解し、実施するとともに小児看護における看護過程の展開技術を習得する																																
ディプロマポリシーのキーワード 対象の全人的理解                      看護実践力 探求心                                      科学的根拠																																
授業計画  <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; width: 10%; border-bottom: none;">&lt;回&gt;</th> <th style="text-align: center; width: 70%; border-bottom: none;">&lt;学習内容&gt;</th> <th style="text-align: right; width: 20%; border-bottom: none;">&lt;方法&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>援助関係を形成する技術</td> <td style="text-align: right;">講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>安心・安全な環境を調整する技術・食事・排泄・清潔・更衣の援助技術</td> <td style="text-align: right;">講義</td> </tr> <tr> <td>3～4</td> <td>小児の日常生活援助</td> <td style="text-align: right;">演習</td> </tr> <tr> <td>5～6</td> <td>小児のバイタルサイン測定の技術・与薬の技術</td> <td style="text-align: right;">演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>小児看護過程の考え方・アセスメントの視点・記録用紙の書き方の説明</td> <td style="text-align: right;">講義</td> </tr> <tr> <td>8～9</td> <td>小児看護過程    事例の展開    基本情報・アセスメント</td> <td style="text-align: right;">演習</td> </tr> <tr> <td>10～11</td> <td>小児看護過程    事例の展開    関連図・看護計画</td> <td style="text-align: right;">演習</td> </tr> <tr> <td>12～13</td> <td>小児看護過程    事例の展開    看護計画立案・援助計画</td> <td style="text-align: right;">GW</td> </tr> <tr> <td>14～15</td> <td>援助の実施</td> <td style="text-align: right;">演習</td> </tr> </tbody> </table> <p>(実践的な教育内容)</p> 大学病院と母子保健医療センターでの小児看護の臨床経験に基づき、小児の成長・発達ならびに健康状態に応じた日常生活上の援助および検査や処置・治療における適切な援助方法を理解し、実施するとともに小児看護における看護過程の展開技術を習得するための演習を行う			<回>	<学習内容>	<方法>	1	援助関係を形成する技術	講義	2	安心・安全な環境を調整する技術・食事・排泄・清潔・更衣の援助技術	講義	3～4	小児の日常生活援助	演習	5～6	小児のバイタルサイン測定の技術・与薬の技術	演習	7	小児看護過程の考え方・アセスメントの視点・記録用紙の書き方の説明	講義	8～9	小児看護過程    事例の展開    基本情報・アセスメント	演習	10～11	小児看護過程    事例の展開    関連図・看護計画	演習	12～13	小児看護過程    事例の展開    看護計画立案・援助計画	GW	14～15	援助の実施	演習
<回>	<学習内容>	<方法>																														
1	援助関係を形成する技術	講義																														
2	安心・安全な環境を調整する技術・食事・排泄・清潔・更衣の援助技術	講義																														
3～4	小児の日常生活援助	演習																														
5～6	小児のバイタルサイン測定の技術・与薬の技術	演習																														
7	小児看護過程の考え方・アセスメントの視点・記録用紙の書き方の説明	講義																														
8～9	小児看護過程    事例の展開    基本情報・アセスメント	演習																														
10～11	小児看護過程    事例の展開    関連図・看護計画	演習																														
12～13	小児看護過程    事例の展開    看護計画立案・援助計画	GW																														
14～15	援助の実施	演習																														
受講上の注意 小児看護学概論・援助論・看護技術論で学習した内容を復習し、教科書にQRコードのある動画は必ず視聴しておくこと。演習・グループワークは積極的に参加すること	評価方法 課題：100%																															
教科書・参考書等 教科書    中野綾美他著、小児看護学②小児看護技術、メディカ出版 参考書    山元恵子他著、写真でわかる小児看護技術、インターメディカ 渡辺朋他著、小児看護のキホン、秀和システム 荃津智子他著、発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程、医歯薬出版株式会社 浅野みどり他著、小児看護過程、医学書院																																

授業科目  母性看護学概論（新）	配当時期 2年前期  単位数 1  時間数 30	講義担当者  奥野高子 （実務経験有）																																										
授業の流れ 母性看護の基盤となる概念や母性看護の対象を取り巻く社会の現状を学び、女性の一生を通じた健康の保持・増進、疾病予防および次世代の健全育成を支援する重要性について理解する																																												
ディプロマポリシーのキーワード 専門職としての責任の自覚 看護実践力 主体的な学び 多職種連携																																												
授業の流れ <table border="1" data-bbox="159 672 1372 1433"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>母性看護の基盤となる概念 母性とは 母子関係と家族発達</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母性看護の基盤となる概念 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>母性看護のあり方 ヘルスプロモーション</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ライフサイクルにおける形態・機能の変化</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>妊娠・胎児の性分化</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>女性のライフサイクルと家族 母性・父性の発達</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>母性看護の変遷 母性看護にかかわる指標・動向</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>母性看護に関わる法律・施策</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>思春期・性成熟期の健康と看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>更年期・老年期の健康と看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11・12</td> <td>リプロダクティブヘルスケア（グループワーク）</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13・14</td> <td>リプロダクティブヘルスケア（発表）</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>母性看護における倫理的問題 まとめ</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>（実践的な教育内容）</p> <p>助産師としての豊富な臨床経験に基づき、女性のライフスタイルの特徴や発達課題について理解し、母性看護を展開するために必要な基礎知識が習得できるように授業を行う。</p>			回	学習内容	方法	1	母性看護の基盤となる概念 母性とは 母子関係と家族発達	講義	2	母性看護の基盤となる概念 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス	講義	3	母性看護のあり方 ヘルスプロモーション	講義	4	ライフサイクルにおける形態・機能の変化	講義	5	妊娠・胎児の性分化	講義	6	女性のライフサイクルと家族 母性・父性の発達	講義	7	母性看護の変遷 母性看護にかかわる指標・動向	講義	8	母性看護に関わる法律・施策	講義	9	思春期・性成熟期の健康と看護	講義	10	更年期・老年期の健康と看護	講義	11・12	リプロダクティブヘルスケア（グループワーク）	演習	13・14	リプロダクティブヘルスケア（発表）	演習	15	母性看護における倫理的問題 まとめ	講義
回	学習内容	方法																																										
1	母性看護の基盤となる概念 母性とは 母子関係と家族発達	講義																																										
2	母性看護の基盤となる概念 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス	講義																																										
3	母性看護のあり方 ヘルスプロモーション	講義																																										
4	ライフサイクルにおける形態・機能の変化	講義																																										
5	妊娠・胎児の性分化	講義																																										
6	女性のライフサイクルと家族 母性・父性の発達	講義																																										
7	母性看護の変遷 母性看護にかかわる指標・動向	講義																																										
8	母性看護に関わる法律・施策	講義																																										
9	思春期・性成熟期の健康と看護	講義																																										
10	更年期・老年期の健康と看護	講義																																										
11・12	リプロダクティブヘルスケア（グループワーク）	演習																																										
13・14	リプロダクティブヘルスケア（発表）	演習																																										
15	母性看護における倫理的問題 まとめ	講義																																										
受講上の注意 受講前に母性看護に関連する解剖生理学について復習しておきましょう また、母性の健康が次世代に受け継がれる際の看護のあり方、性の多様性、リプロダクティブヘルスケア等様々なことを学ぶ科目です。これらを理解するために常に社会に関心をむける習慣をつけておきましょう	評価方法 試験：90% [ 小テスト：10% ] [ 終講試験 80% ] 課題：10%																																											
教科書・参考書等 教科書 森 恵美他著、系統看護学講座、母性看護学① 母性看護学概論、医学書院																																												

授業科目  母性看護援助論演習（新）	配当時期 2年後期  単位数 1  時間数 15	講義担当者  奥野 高子 （実務経験有）																											
授業目標 周産期にある母子およびその家族を対象とするウェルネス思考をふまえた看護過程展開と周産期ケアに必要な技術を習得する																													
ディプロマポリシーのキーワード 対象の全人的理解    科学的根拠    看護実践力 主体的な学び        探求心																													
授業の流れ <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 75%;">学習内容</th> <th style="width: 20%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>母性看護過程マタニティサイクルにおける看護の特徴 ウェルネス思考の考え方</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>妊娠経過のアセスメント</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>妊婦のヘルスアセスメント（計測診・触診）</td> <td>技術演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>褥婦・新生児の看護過程</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>褥婦・新生児のアセスメント</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>褥婦の看護に関わる技術</td> <td>技術演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>新生児の看護に関わる技術</td> <td>技術演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>（実践的な教育内容）</p> <p>助産師としての豊富な臨床経験に基づき、周産期にある母子およびその家族を対象とするウェルネス思考をふまえた看護過程展開と周産期ケアに必要な技術を習得するための演習を行う。</p>			回	学習内容	方法	1	母性看護過程マタニティサイクルにおける看護の特徴 ウェルネス思考の考え方	講義	2	妊娠経過のアセスメント	講義・演習	3	妊婦のヘルスアセスメント（計測診・触診）	技術演習	4	褥婦・新生児の看護過程	講義	5	褥婦・新生児のアセスメント	演習	6	褥婦の看護に関わる技術	技術演習	7	新生児の看護に関わる技術	技術演習	8	まとめ	講義
回	学習内容	方法																											
1	母性看護過程マタニティサイクルにおける看護の特徴 ウェルネス思考の考え方	講義																											
2	妊娠経過のアセスメント	講義・演習																											
3	妊婦のヘルスアセスメント（計測診・触診）	技術演習																											
4	褥婦・新生児の看護過程	講義																											
5	褥婦・新生児のアセスメント	演習																											
6	褥婦の看護に関わる技術	技術演習																											
7	新生児の看護に関わる技術	技術演習																											
8	まとめ	講義																											
受講上の注意  母性看護援助論で学んだ知識を実際の看護展開に活用できるよう、思考過程や技援助技術を習得する科目です。母性看護援助論で学習したことを復習したうえで受講してください。	評価方法 課題：100%																												
教科書・参考書等 教科書 荒木奈緒他著. ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術. メディカ出版																													

授業科目  <p style="text-align: center;">看護研究（新）</p>	配当時期 3 年前期  単位数 1  時間数 3 0	講義担当者  池内嘉代子 （実務経験有）																																	
授業目標 看護の実践を科学的に研究していくための研究的視点を持つ意義を理解し、事例研究を通して実践した看護を評価するとともに、論文のまとめ方・発表の仕方を学ぶ																																			
ディプロマポリシーのキーワード 看護専門職としての責任の自覚 探求心を持つ                      主体的な学び																																			
授業の流れ <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">回</th> <th style="text-align: center;">学習内容</th> <th style="text-align: center;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>授業ガイダンス</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>看護研究の意義と目的</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>研究のための情報とその吟味</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>研究における倫理的配慮</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>研究デザイン</td> <td style="text-align: center;">演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>データの収集と分析</td> <td style="text-align: center;">演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7・8</td> <td>研究計画書と論文発表の方法</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9・10</td> <td>ケーススタディの進め方とまとめ方</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11～14</td> <td>ケーススタディの実施</td> <td style="text-align: center;">演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td>まとめ</td> <td style="text-align: center;">講義</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 20px;">（実践的な教育内容）          総合病院における病棟勤務経験に基づき、看護研究の基本的な方法論を理解し、演習を行うことで看護研究の基本的な技術が習得できようように授業を行う。</p>			回	学習内容	方法	1	授業ガイダンス	講義	2	看護研究の意義と目的	講義	3	研究のための情報とその吟味	講義	4	研究における倫理的配慮	講義	5	研究デザイン	演習	6	データの収集と分析	演習	7・8	研究計画書と論文発表の方法	講義	9・10	ケーススタディの進め方とまとめ方	講義	11～14	ケーススタディの実施	演習	15	まとめ	講義
回	学習内容	方法																																	
1	授業ガイダンス	講義																																	
2	看護研究の意義と目的	講義																																	
3	研究のための情報とその吟味	講義																																	
4	研究における倫理的配慮	講義																																	
5	研究デザイン	演習																																	
6	データの収集と分析	演習																																	
7・8	研究計画書と論文発表の方法	講義																																	
9・10	ケーススタディの進め方とまとめ方	講義																																	
11～14	ケーススタディの実施	演習																																	
15	まとめ	講義																																	
受講上の注意 看護研究の基礎を学びます。主に対面授業で行いますが文献検索やケーススタディは個人ワークとなりますので主体的に取り組んでください。	評価方法 試験：30% 課題：70%																																		
教科書・参考書等 教科書    坂下玲子他著.系統看護学講座・別巻. 医学書院 松本 学編. わかりやすいケーススタディの進め方, , 照林社																																			